

引き継ぐ伝統 創り上げる足跡



2月13日(木)に町民会館にて、養老小学校6年生児童による令和6年度卒業記念公演オペレッタ「養老物語」が上演されました。同校では総合的な学習の中で、町の自然や伝統、文化などを学びながら他者を思いやる心などを育てています。その集大成として、親孝行息子「源丞内」の生き方や精神を歌や演技で表現し、卒業生から後輩たちへ引き継いでいくことが伝統となっています。

伝統として引き継ぐのはもちろん、今年は町制施行70周年を迎えたことにも触れるなど、自分たちでアレンジを加えてオペレッタを創り上げ、後輩たちへ受け継ぎました。ふるさとを誇りに思う心の込められた作品は観客の心に響き、フィナーレには大きな拍手が送られました。

本とふれあい、思い出を



2月25日(火)に岐阜県民共済生活協同組合(岐阜市)より、児童向けの図書など84冊を寄贈いただきました。同組合は2018年から県と県内市町村に対して、図書などの寄贈を継続的に行っています。

林直美理事長は「地域に根ざした企業として、感謝の気持ちを込めて、児童向け図書を中心に寄贈しました。養老町の子どもたちにとって、本に触れ、手に取るきっかけとなってくると嬉しいです。本を読むことは学習や教育にも繋がると思います。また、紙でできた本とふれあうことで、内容が記憶に残り、思い出となると思うので、今後も寄贈を続けていきたいです」と話しました。

寄贈いただいた図書は、町図書館にて貸出用として設置します。

地域に寄り添い、未来をつなぐ



大垣西濃信用金庫(大垣市)の創立100周年を記念し、同金庫より企業版ふるさと納税制度を活用して50万円を寄附いただきました。また、これまで『だいしん緑化文化振興財団』をはじめとした関連団体からも寄附をいただいています。

2月28日(金)に小川章理事長が川地憲元町長を訪問し、「創立100周年を記念し、『未来をつなぐ』をスローガンに掲げ、地域の皆さまの未来に寄り添い、輝く明日を切り拓くという思いを込めて寄附しました。今後も地域社会の更なる発展のため、地域とともに歩んでいきたいです」と話しました。

いただいた寄附金は、地域住民が主体となって運営・活動する「地域自治町民会議」の設立や運営の支援を行うために活用させていただきます。

連携強める2つの協定



3月6日(木)に町と日本郵便株式会社は、相互に連携し、地域の様々な課題に迅速かつ適切に対応し、住民サービスの向上と地域の活性化を図るために「包括連携等に関する協定」、気候変動適応法に基づくクーリングシェルターとして町内の郵便局を開放し、熱中症被害発生の防止を図るために「気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設に係る協定」を締結しました。

加納道夫養老郵便局長(写真左)が「今回の協定締結をきっかけとして、町と連携して地域の問題解決に向けて取り組んでいきたいです」と意気込みを話すと、川地憲元町長は「様々な課題を抱えている中で、手を取り合っていけることは大変ありがたいです。幅広い分野でお力添えいただけること頼もしく思います」と期待を寄せました。